

2015 年度 前期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2010年度後期より、KOAN上でのアンケートになったが、2014年度前期以降、再び授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更した。実施期間は以下の通りである。今年度は、集中講義の期間が昨年度までの4ゾーンから3ゾーン（A、B、Cのみ）に変更された。

2015年度前期アンケート回答期間：2015年7月6日～8月7日

（集中講義A）：2015年9月1日～9月4日

（集中講義B）：2015年9月7日～9月11日

（集中講義C）：2015年9月14日～9月18日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義科目である。対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は67.8%であった。（2014年度後期：68.5%）

2015年度前期授業改善アンケート 対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
共通科目		9	76
学部科目	行動系科目	13	386
	社会系科目	12	449
	教育系科目	14	543
	グローバル系科目	10	331
大学院科目		46	261
計		104	2046

回収数 2046 / 受講登録者数 3018 = 回収率 67.8%

※1 基礎科目は、行動・社会・教育・グローバル系科目に割り振られている。

2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2015年度前期の授業改善アンケートは、2014年度から引き続きマークシート方式を採用した。今回の回収率は67.8%（2014年度前期：70.1%、後期：68.5%）で、KOANでアンケートをしていた時期と比べて、良好な水準といえる。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については3.95（2014年度前期：3.96）と、学生の授業への満足度は高いといえる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が76.1%（2014年前期87.5%）と、多数の学生が授業に参加しているものの、昨年度よりも出席率は低下していた。また、問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に関しては、「ほとんどなし」が53.7%を占めていた（2014年前期54.7%）。予習・復習時間の少なさは、継続してみられる。問4の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は3.64（2014年度前期：3.62）で、昨年度とほぼ同じ水準であり、65.8%が「そう思う／強くそう思う」と回答していた。

出席率や自習時間を増やすための働きかけをもう一度見直し、授業の理解度の維持、向上について検討することが望ましいであろう。

シラバスについて問5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対して「そう思う」の割合は62.5%（2014年度前期：53.9%）と、昨年度の前期からは改善がみられた。問6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は70.4%（2014年前期64.5%）と、昨年度の同時期から上昇していた。

問8の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」の平均値は3.81（2014年度前期：3.83）、問9の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」の平均値は3.77（2014年度前期：3.76）であり、一定して高い値となっていた。

以下より、2015年度前期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

1. 全体集計

2. 学系別集計

※・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

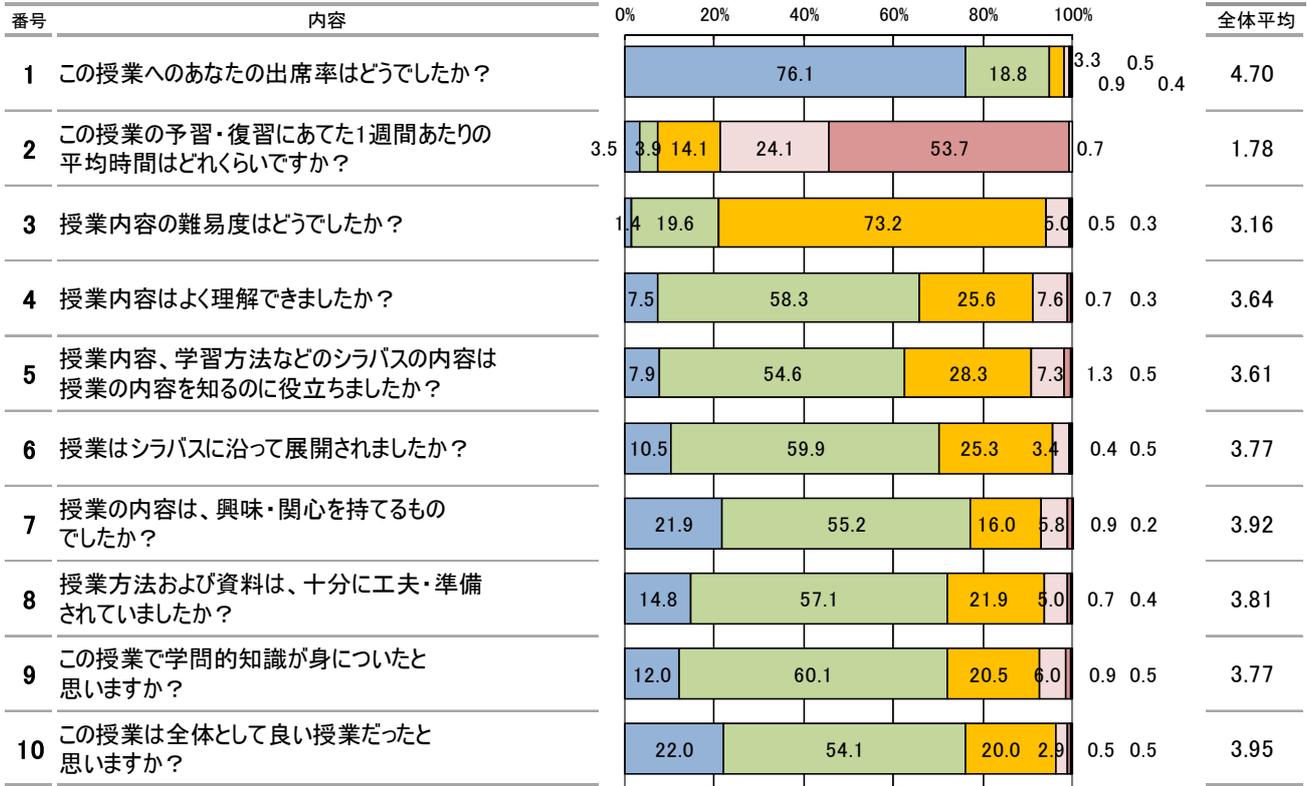
・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・グローバル系科目に割り振られている。

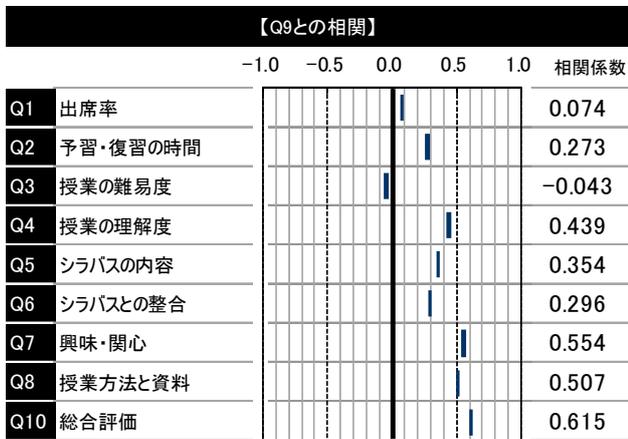
・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

<h1>全体集計</h1>	履修者数	3018
	回答数	2046
	回答率	67.8%

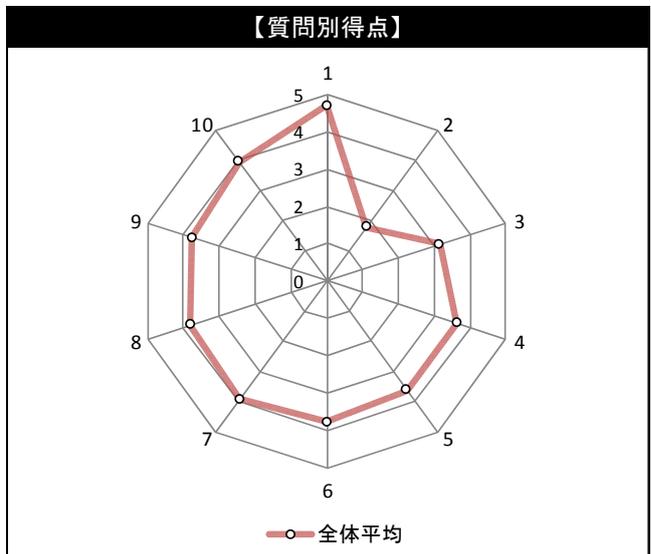
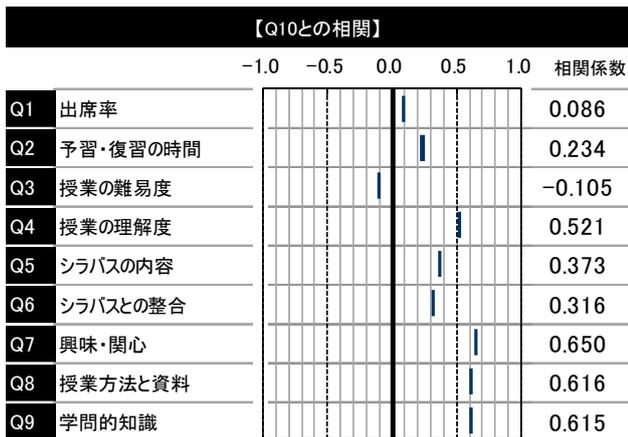


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	-
質問1	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	不明 (無回答を含む)
質問2	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問3	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問4~9	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	
質問10						

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

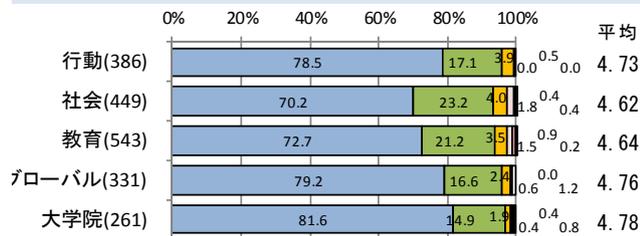


学系別集計

※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	不明 (無回答を 含む)
質問2	3時間以上	1.5時間 ~3時間	30分 ~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	良くなかった	良くなかった	

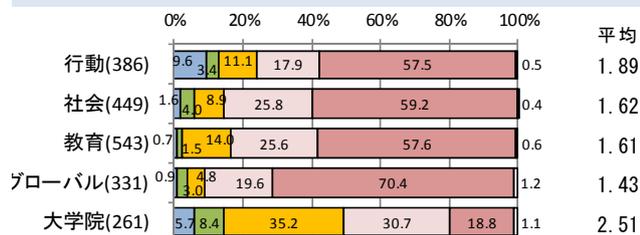
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



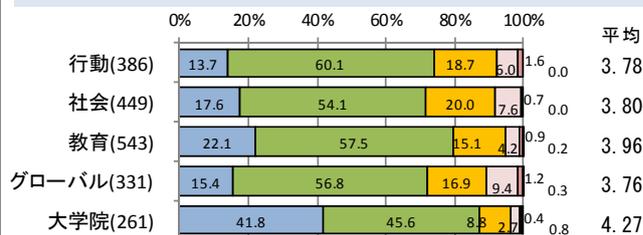
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



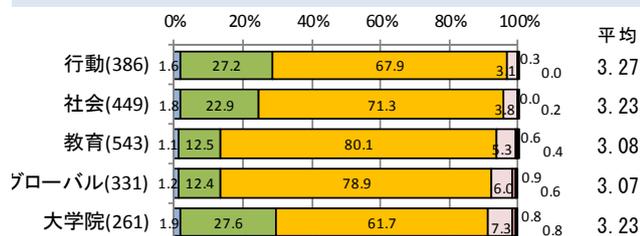
2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



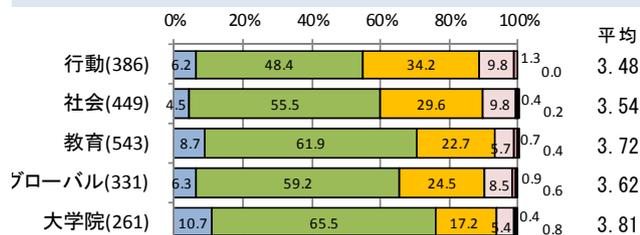
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



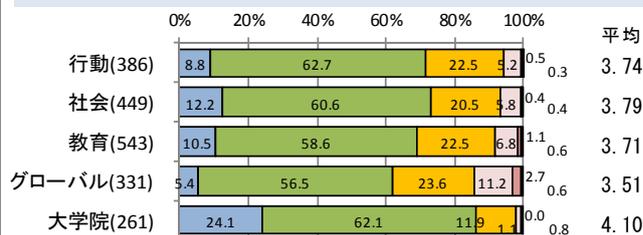
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



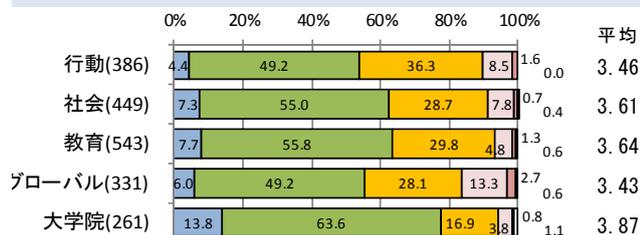
4. 授業内容はよく理解できましたか？



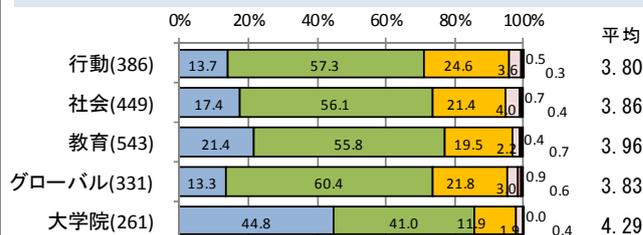
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 104 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 53 科目であり、平均値 4.06 を上回ったのは 30 科目であった。

2015 年度前期講義科目

満足度上位の科目一覧

		有効回答数	問 10 平均値
1	人格心理学特講	15	4.93
2	比較社会学	16	4.56
3	医療通説論 II	11	4.55
4	動態地域論 I	13	4.54
5	学校社会学	30	4.53
6	多文化医療通説概論	17	4.53
7	教育制度学	30	4.47
8	学校経営学特講	10	4.40
9	教育工学 II	25	4.40
10	心理療法特講	10	4.40
11	自然地理学	13	4.38
12	社会データ科学特講	11	4.36
13	動物園行動学	11	4.36
14	社会データ科学	27	4.33
15	宗教社会学特講	15	4.27

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（非常勤講師は除く）。

八十島 安伸	人間科学概論 I (行動の科学)
<p>教員コメント</p> <p>⇒概論 I 「行動の科学」は、本年も 11 名の教員によるオムニバス形式講義とグループワークを行う講義形式を実施しました。この形式は概ね受講生からの高評価を得たと感じています。グループワークについては、自らの意見や考えを話し、また、他の受講生からも意見交換を熱心に展開するグループが多く、グループワークは概ね成功であったと思っています。ただ、昨年度と同様に、少数意見として、グループワークの実施方法や講義の内容に関する点についての不満を持つ受講生が居たというアンケート結果でした。これらの意見の全てに満足してもらえない対応は不可能ですが、改善のためにも今後も念頭においていきます。グループワークをより良くする方法論も検討すべきと感じます。また、講義内容についても、固定されたものではないので、より良いものを提供できるように各教員の皆様と相談し、改善していきたいと思っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒グループワークを行うためのメンバー振り分けについて、CLE システムの運用をよりスムーズに行うようにした。</p>	
檜垣 立哉	人間科学概論 II (人間と社会)
<p>教員コメント</p> <p>⇒オムニバス式の授業であるが、教員を四名にしてそれぞれが課題をだすという形式で、じっくりとりくめてよかったという声があった。逆にもっと多くの先生が何をしているのか知りたいという声もあるが、ここら辺のバランスが難しいところであるとおもう。全体としてまあよかったとよかったが七割を占めていたので形式的にもこのかたちですすめていくのでよいのではないかとおもう。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒オムニバス式の授業であるという点はかわらないが、今年は四人で担当し、教員ひとりの担当分が多くなった。一面ではもっと多くの先生のはなしをききたいという声もあるが、他面ではじっくりとりくめて良かったという評価にもつながっている。</p>	
西森 年寿	人間科学概論 III (人間の形成)
<p>教員コメント</p> <p>⇒総合的な評価値などが微減したので、注意したいと思います。</p> <p>他方、シラバス関係での評価が向上したようですが、特に変更点などが思い当たらないので、何らかの基準の変化による相対的なものと推測しています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒最終回に全体を再度俯瞰するミニ講義とレポートの相互レビュー活動を入れたことで、全体での理解度等に影響があるかと思ったのですが、あまりそういう結果にはつながらず残念です。</p>	

河森 正人	人間科学概論 IV (人とグローバル世界)
<p>教員コメント</p> <p>⇒「予習・復習にあてた時間」、そして「学問的知識が身についたか」という2つの項目が課題として浮かび上がったように思う。前者については、次週の講義の内容について紹介し、事前に調べてくるようにするなどの対策を、また、後者については、理論面での説明を補強することなどを今後の課題としたい。自由回答では、多数ある課題図書について、すべて図書館に配架してほしい、グローバル人間学専攻の説明を最初にしてほしい、講義の最後にその回のまとめをしてほしい、などの指摘があった。今後の課題としたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今年度は、一部の講義で参加型の授業形式をとった。具体的には、グループに分かれて討論をするというものだが、アンケートでは楽しかったという意見がある反面、人数的に無理があるといった指摘もあった。今後の検討課題としたい。</p>	

権藤 恭之	心理学実験
<p>教員コメント</p> <p>⇒本科目は、心理学実験に関わる5つの課題に対してそれぞれのレポートの提出を義務としている。レポートの提出を負担と感じている学生が少なからず存在する。しかし、レポートは、その後の科学論文としての卒業論文の執筆の初めの第一歩と言えるので、最後まで頑張ってきてほしい。</p> <p>提出されたレポートは、担当の教員およびTAにより丁寧に添削をしており、指導に従って修正すれば、最低限の体裁は整える合格点に達することが可能であるように組み立てている。しかし、中には独自に文献を調べ、基礎的な実験ではあるが、結果に対してユニークな考察を行う受講者もいるので、基礎実験であっても新しい発見をすることは可能である。好奇心を持って課題に取り組んでもらいたい。今後は実験課題自体により興味を持てるような取り組みをする必要があると考えている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特に改善した点はなかったが、来年度から班別に行っている実験の内容を、基本的な枠組みから外れなければ独自にアレンジをして実施することを可能とし、レポート作成の動機づけを高めるという案を現在検討している。</p>	

齊藤 弥生	社会環境学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒ポートフォリオシートは「教員の思い通りの思考を求めている」ものではありません。担当教員により若干の差があるでしょうが、あくまでも講義を理解していることが前提とし、その上で自分の意見や見解が展開できることが期待されます。来年度はポートフォリオシートに期待される記述について、オリエンテーションでもう少し説明をするようにしたいと思います。また「課題が多い」という意見もありましたが、評価アンケートみても本講義では予習・復習への時間について「ほとんどなし」という回答が7割となっています。そのため、文献を読んでレポートをまとめるという基本的な学習作業を「課題」を通じて課していると考えてください。これも卒業研究に向けたトレーニングの一環です。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒卒業研究に向けたトレーニングとして、課題を出しています。その点については今年度はオリエンテーションでかなり強調して説明しました。しかし理解がいきわたらず、次年度もオリエンテーションでも説明をさらに充実させていきたいと思っています。</p>	

佐々木 淳	臨床教育学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒例年通り、授業内容への興味や理解度など、全体的に評価が高いことが確認できました。 授業方法や内容の統一感などについては、今後も検討していきたいと考えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒同じ研究分野からの講義をなるべく連続で聴けるように配慮した。</p>	

鈴木 広和	地域研究概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒来年度は、全体の構成について、見直しをする予定です。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒出席・遅刻の取扱いについては、昨年度より少し緩やかにしました。 他の概論授業との重複講義をなくしました。</p>	

篠原 一光	総合人間科学 I / 総合人間科学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業の形態として全く新しいもので担当者としても手探りで実施する状態ではあったが、当初の目的はほぼ達成できたと考えている。ただし、グループワークとディスカッションについては、当初時間配分が多すぎるのではないかと思う程度に時間を設定したが、実際に実施してみると特に発表後のフォローアップに時間がとれないといった問題が生じた。また、発表のための時間もやや不足気味であると感じた。次回開講時には今年度の経験をふまえて、発表やディスカッションの時間が十分にとれるよう配慮したいと考えている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒なし（今年度新設科目のため）</p>	

栗本 英世	コンフリクトの人文科学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒予習・復習にあてた時間が少ない結果が出たので、来年度はこの点に留意し、授業外でも自分で勉強できるようにしたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒配布資料を多くし、授業内容を十分に理解できるようにした。</p>	

中村 安秀	多文化医療通訳概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒人間科学研究科だけでなく、保健学科や言語文化研究科など、他の学部からも参加いただき、ありがとうございました。今回のアンケートでは、所属の研究科はわかりませんが、グループディスカッションや論文発表なども有意義と考えていただき、ありがとうございました。</p> <p>発表の仕方についても授業をした方がいいという意見がありました。私の講義のなかで「発表の仕方について」きちんと話すのは時間的に難しいですが、他学部も含めて、プレゼンテーションに関する講義を紹介するにしたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒好評だったので、ことしも、グループディスカッションを取り入れました。</p>	

赤井 誠生	動機づけ心理学 / 基礎心理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒特になし。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業時の発声を明瞭にするように留意しました。</p>	

熊倉 博雄(中野良彦)	行動形態学
<p>教員コメント</p> <p>⇒難易度が普通であったのに、理解度、知識の習得についてやや高い結果を示したのは、授業内容を改善した結果だと思う。シラバスに沿って展開されたかについて「どちらともいえない」の回答が多かったのは、途中で、熊倉先生の急逝のため、休講や講師の交代があったことから仕方がなかったのではないと思う</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業をわかりやすくし、理解度を高めるように内容をやや一般向きに変更した。</p>	

八十島 安伸	感覚生理学 / 行動生理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒感覚生理学・行動生理学特講 I については、シラバスに記載した内容を全て網羅できませんでした。その点は反省点です。ただ、取り上げたテーマについては、深く掘り下げ、日常生活で体験するさまざまな現象には、生理学的・神経科学的なメカニズムが存在すること、そして、それらの働きが我々の認知・情動・動機づけ・行動などを支えていることについては、概ね解説できたのではないかと考えています。受講生には、自分たちの生活が、解説したような脳機能や生理機能に支えられていることを理解してもらえたと思います。そのため、講義の全体的な印象も高評価を得られたと思います。確かに難しいという意見も少数ありました。ただ、この講義の準備段階として、行動生理学という科目を開講していますので、それを受講していただくと良いと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業時間の中で、できるだけ多くの実験・デモンストレーションならびに学生間の討論の場を設けて、一方向的な講義とはならないようにした。説明をより丁寧に行った。</p>	

足立 浩平	推測統計科学 / 行動統計科学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒できるだけ平易に解説できるように努めたが、やはり教科書の内容は難しかったと判断され、受講者は細部で理解不可能な部分が残っても、それは気にしなくて良いと考えられる。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒教科書の内容が難しいため、できるだけ平易に解説できるように努めた。</p>	

佐藤 眞一	高齢者行動論 / 臨床死生学・老年行動学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒3名の教員によるオムニバス講義であった。教員は互いに内容が重ならないように打ち合わせて授業を行った。しかし、難易度、理解度などはおおよそ問題が無く、おおむね好評であった。学生からも特に考慮すべきコメントは無かった。本年度も参考図書を提示したものの、昨年同様予習・復習の時間が少なかった。具体的な課題は示さなかったが、授業中にコメント提出を義務づけたので、自ら調べたりする学生もいたように思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒より多くの参考図書を示したが、予習復数の時間は昨年と同じように少なかった。また、授業時間内にコメントペーパーを出させるようにしたので、復習をしている学生もあったようである。</p>	

熊倉 博雄	生物人類学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業は講義形式ではなく、実習を中心に行っており、受講者が1名のみであったため、その興味に従った内容で進めた。そのため、シラバスと異なった内容になるのはやむを得ず、受講生にとってはむしろ有意義であったと考えている。アンケートのその他の項目もこうした方針の結果を反映していると思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒とくになし。</p>	

金澤 忠博	発達臨床心理学 / 比較発達心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒自閉スペクトラム症 (ASD) など発達障害の基本的な症状の理解を促し、発達障害の特性の理解に基づく適切な対応 (支援) の実際について、ビデオや実際の事例の紹介を交えながら学べるように工夫した。また、支援に必要な理論として、認知発達理論、学習理論 (応用行動分析)、愛着理論についても基本的理解と臨床応用の仕方を紹介した。受講者が多数であったため、実習形式での課題を通して学ぶ機会は充分には用意できなかったが、今後もさらに工夫していきたい。毎回講義の終わりに提出してもらったコメントシートでも実践的な知識を求める内容が多かった。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度不開講</p>	

日野林 俊彦	比較発達心理学
<p>教員コメント</p> <p>⇒内容が自分の関心に偏りすぎて、受講生の関心と重ならなかったという感想です。もう少し青年期の発達と関わりを深めた内容のほうが、関心を持って参加していただけたのかと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p> <p>パワーポイントの使用頻度を高めた。</p>	

遠藤 知子	ボランティア社会論 / ボランティア社会論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒今後は授業内容が理解しやすくなるために初心者でも読みやすいテキストを定め、授業の予習復習に利用できるようにしたいと思います。また、講義以外のグループディスカッションの時間を設け、授業に学生が参加しやすいように工夫します。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

稲場 圭信	現代社会学 / 現代社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒おおむねアンケート結果の通りの講義だったと思います。</p> <p>「現代社会が抱える問題を、新たな視点から考えるのに役に立った」との感想があり、嬉しく思います。</p> <p>スライドの提示時間を長くする、スライドの流れをもう少し分かりやすくするなど来年度にむけて改善します。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

吉川 徹	社会データ科学 / 社会データ科学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒ますます改善に努めます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義の場合は授業を全てICレコーダーに録音して、内容を自己点検しています。</p>	

川端 亮	宗教社会学 / 宗教社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒受講生に理解してもらえるように、ゆっくり話すように心がけ、アンケートではまずまず理解してもらったという回答でしたが、試験ではみんなが十分な点数を取ることができたわけではありませんでした。</p> <p>今後は、質疑の時間や復習の時間を取って、受講生の理解をよりいっそう深めるようにしていきたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒（隔年開講なので、一昨年と比較して）授業の資料を新しいものに改定したこと、ゆっくり話すように心がけたこと。</p>	

Robert Scott North	比較社会学 / 比較社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒The class had a variety of students this year (G-30, OUSSEP, 学部生, 院生) which made teaching a challenge. The instructor was, nevertheless, gratified to find that those who responded to the survey evaluated the class positively. At the end of the final exam, I appended a question asking what parts of the course should be modified. Some students noted that the final lecture on divorce was weak so I will probably eliminate that next year.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Some readings were cut or reduced in scale in response to student concerns from previous years. Other than that, the syllabus was mostly unchanged because the class seems to work well and satisfy most of the students.</p>	

山中 浩司	文化社会学 / 文化社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケート結果については、全体的に良好で、昨年よりも若干よいと感じるが、学部生にとって後半の授業はやや難しいと感じられたようだ。情報量を少し減らして理解を促進するように改善したい。また配付資料の文字が小さくなりがちである点も、改善の余地があると思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒受講生の意見や質問をできるだけ授業中に聞けるように、毎回参加者の発言を促すように試みた。全体によく発言してもらい、コミュニケーションは改善されたように思う。</p>	

栗本 英世	グローバル化と文化
<p>教員コメント</p> <p>⇒予習・復習にあてた時間が少ない結果が出たので、来年度はこの点に留意し、授業外でも自分で勉強できるようにしたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒配布資料を多くし、授業内容を十分に理解できるようにした。</p>	

村上 靖彦	現象学的な質的研究特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒本授業では、教員が現在行っている研究の結果を提示し参加者の皆さんと議論をする形をとっています。今回は、データ分析で困難を抱えていたために受講者の皆さんにもご迷惑をお掛けしたかもしれませんが、その分、積極的に議論に参加していただけたので満足しています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

中山 康雄	言語・情報論 / 言語・情報論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業の内容に対する関心などで、高い評価が得られた。熱心な学生が参加し、よく質問してくれたおかげだと思う。また教科書を用いた授業だったので、予習・復讐も可能であり、予習・復讐をする学生が見られたこともよい点であった。これからの授業でも、質問してくれる学生が出ることを期待したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業の内容に対する関心などで、昨年度よりも高い評価が得られた。</p>	

木村 涼子	ジェンダー教育学 / ジェンダー教育学特講(A)
<p>教員コメント</p> <p>⇒教員と受講生、また受講生相互の交流をはかるために、ポートフォリオシートを用いた感想・質疑応答、さらに受講生によるテーマ発表の時間も組み込んだ形式をとりましたが、例年その点は受講生同士の刺激にもなっている一方、もっと講義を聞きたかったという声もあったため、改善したいと思います。反省点としては、シラバスの予定どおりにすすまない回もあったことで、授業計画どおりにすすめてほしかったという声には今度応えていきたいと思います。昨年度は遅刻者の扱いについて受講生の不満がありましたが、ポートフォリオシートの活用によって、出席と遅刻をうまく区別することができるようになり、その点の不満はなくなったことが成果だと考えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒まず、毎回の授業内容を精選し、内容が次回にずれこむことがないように努めたいと思います。また、受講生による発表や受講生の感想の紹介の時間をバランスよく配分することで、講義も十分に行い、受講生の参加も適度に促す形をめざしたいと考えています。</p>	

志水 宏吉	学校社会学
<p>教員コメント</p> <p>⇒今期の受講生は70人程度と、昨年度より大幅に増えた。例年よりも、授業進行に連れての出席者の減少も少なく、熱心に授業に参加してくれたように思う。昨年同様、受講生同士のディスカッションを重視した授業展開を心がけた。例年以上に、受講生の積極的な関与が見られたように思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

小野田 正利	学校経営学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒回答率が100%（但し大学院の講義なので合計11人）は、全体傾向を見るうえで役に立った。すべての項目について、全体平均を上回っていたことは、良かったと思う。ただ「2. この授業の予習・復習にあてた平均時間」が低くなるのは、院生たちがたくさんの授業をとっていれば、寝る時間すらなくなるので、この項目設定自体は授業評価としては、かなり別な項目設定ではないかと感じている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特にないが、新たな資料をかなり取り入れながら進めた。</p>	

野坂 祐子	教育心理学 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒出席率も高く、多くの学生が興味をもって受講していてよかったです。</p> <p>授業ではできるだけグループワークを行い、受講者同士の意見交換の機会を設けるようにしました。お互いの意見から学べたことも多かったと思います。</p> <p>予習や復習はぜひ自主的にやってほしいところですが、こちらでも課題を提示するなどして自己学習に取り組みやすいように改善していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒グループワークの指示が曖昧な課題があった点について、できるだけ明確になるよう工夫しました。理解度が高まったようで、よかったです。</p>	

西森 年寿	教育工学 II / 教育工学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒下降したのは理解度・興味関心・全体評価で、向上したのは学習時間・シラバスの内容・学問的知識の修得です。思い当たるのは、後半でやや授業を淡泊に終えた部分があるので、理解度などへの配慮が少なかったかなということですね。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒取り扱う内容について学習理論の部分を中心にゆっくり学ぶものとなるように計画しましたが、効果があったのかは不明です。</p>	

中澤 渉	教育社会学 / 教育社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年のようなコメントはなかったが、総じて言えるのは、学部生（教育社会学）の点より、院生（教育社会学特講）の点が高かったこと、特に学部生で「授業内容はよく理解できたか」の回答が「どちらともいえない」という人が最も多かったことから、少し説明が専門的過ぎたのかもしれないと考えている。難易度も平均より難しいと回答した人が多かったので（どこに焦点を絞るかは悩みどころではあるものの）水準を落とさず、いかにわかりやすく伝えるかが来年の課題であると感じた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業内容を精選し、内容をあまり詰め込みすぎないようにした。</p>	

藤川 信夫	教育人間学 II / 教育人間学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒予習・復習のための課題の提示を明確にしたいと思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒シラバスとの対応について、いっそう努力したい。</p>	

小野田 正利	教育制度学
<p>教員コメント</p> <p>⇒すべての項目で平均値を超えていることは、まあ良い授業と受け止めてくれたものと思った。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

岡部 美香	教育哲学 / 教育哲学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年より、学生の所属講座が多様となり、議論が活発に行えました。また、学生がプレゼンテーションをする機会を毎回設けたのですが、工夫を凝らした発表をしてくれる学生も少なくなく、こちらも勉強になりました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒議論がしやすい雰囲気を心がけました。 プレゼンテーションの仕方について簡単に説明しました。</p>	

志水 宏吉	教育文化学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒フィールドワークの方法論についての入門的な講義と若干の実習を行った。 受講生たちはきわめて積極的に授業にかかわってくれたと評価する。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

藤岡 淳子	人格心理学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒ケース検討を増やしたことが好評だったので、来年度も3ケース行ないたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒スコアリングにかかる時間を増やした。</p>	

井村 修	臨床心理学 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年同様やや標準を上回る程度の全体的評価だと認識しました。授業の予習時間の評価が昨年の 2.34 から 2.75 に上がったのはうれしく思います。しかしこの評価値は週当たり 1.5 時間程度です。この予習時間が他の科目と比較して妥当なのか、次回の授業で確認してみたいと思います。この授業は TF (ティーチングフェロワー) 試行のために利用されました。D3 の学生が 3 回、教員の指導のもと授業を担当しました。この学生はスクールカウンセラーとして勤務しており、身近な院生の体験談が聞けたとの評価もいただきました。専門性とわかりやすさ両立させる授業ができるといいと考えています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒TF を活用し学生の質問に細やかに対応したことだと思います。</p>	

中村 安秀	国際協力学 I / 国際協力学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒全体として、外国人の学生の割合が高く、質の高い授業を行うことができた。一方、日本人の学生にとっては、英語での発表を含めて、ややハードルの高い授業になったことは否めない。</p> <p>来年は、国際保健に関する講義を多くして、基礎的な知識の向上をめざしてみたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒学生の意見を取り入れて、昨年よりも英語での発表を増やしたところ、もっと知識が向上するように、教授の講義を聞きたいという意見もあった (これは今回のコメントシートだけでなく、授業の終わりに回収するコメントにもみられた意見であった)。</p>	

中村 安秀	国際健康開発論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒人間科学研究科の院生と医学部 4 回生の交流のなかでの授業を、学際的な雰囲気楽しんでもらいました。ときに、医学部の学生はラオスへのスタディ・ツアーがあるため、具体的な目標に向かって準備に余念がありませんでした。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒学際的な学びの場を提供するという大きな目標を達成すべく、昨年度のレベルを落とさないように、招聘講師の選定には工夫を行った。</p>	

岡田 千あき	国際社会開発論 I / 国際社会開発論特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年を受講生の人数は例年より少なかったですが、意欲的な学生が多くいい授業ができたと思っています。引き続き、他学部、他研究科、他系の学生の受講もありました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒外部講師の講演や視聴覚教材の活用などが好評だったようですので、引き続き工夫して「飽きない」授業を行いたいと思います。</p>	

三好 恵真子	人間環境論 II / 人間環境論特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒例年に漏れず、文学部、法学部、工学部、言語文化研究科、工学研究科など、他部局からの受講生もおられ、環境問題への関心の高さがわかります。今年は留学生が多かったことが特徴で、終盤の毎回のディスカッションでは、異なる視点からの重要な議論がなされていたように思います。可能であれば、ディスカッションの時間を多く取れるような回も作れればと思います。</p> <p>資料ですが、事前に配布することも考えましたが、まずは授業に集中して頂くこと、また事後の勉強（特に留学生の方もおられますので）に困らないように、配付資料は詳細なものを毎回ご用意致しました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒毎回の講義の意味づけを持たせるために、全体の講義構成中での今回の授業の位置づけ等を確認出来るように配慮したイントロダクションを毎回用意しました。</p>	

三好 恵真子	人間開発学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒例年通り、今年度の授業にも、グローバル人間学、行動学、教育学、社会学の各学系から多くの院生が受講してくださった他、社会人の研究生および科目履修生の参加もあり、双方向に刺激の多い充実した授業展開となりました。また、受講生それぞれの専門性から、グローバル人間学の学際的・実践的研究の特徴を捉え直しつつ、研究視点の相違を今後活かしていくといった内容の意見を具体的に授業の中で伺えたことは、有り難く思います。ただし、機材の準備で不手際があった回もあったとのことで、TAとの確認を徹底したいと思います。</p> <p>残念ながら、本講義は今年度限りになりましたが、大変好評の中の幕引きとなり、皆様に感謝致します。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒ディスカッションの機会を充実させるようにしました。全体討論会は、2回ほど設けましたが、教員の参加がもう少し多くなれば、なお充実した議論展開になったかもしれません。</p>	

鈴木 広和	地域創成学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒興味を持って受講していただけたようで、教員としてもうれしく思っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒受講生どうしの意見交換の時間を設けた。</p>	

福岡 まどか	地域知識論 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒地域知識論 I では、異文化に対する関心を深め、グローバル化する現代世界における地域固有の知のあり方を探求することを目的としています。今年度は、映像資料の活用や分かり易い配布資料の作成などについて改善を行い、授業に臨みました。</p> <p>回答の中では、内容に対する理解度の面でやや課題が見られると感じました。今後は、より分かり易い事例を用いるなどの工夫をして、また日本の事例などとの比較も通して、受講生の皆さんの理解度を高めていきたいと思えます。また、シラバスが授業内容の把握に果たす役割についても課題が見られるようです。この点については、今後のシラバスの内容も改善していきたいと考えております。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

ズグスタ リチャード	地域知識論特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒何人かの人が授業内容が理解しにくいということでしたので次回からはわかりやすい資料や詳しい説明をしたいと思えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

鈴木 広和	動態地域論 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒今後は、レポート課題を、もっと講義との関連性がはっきりしたものにしようと考えています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒受講生の意見交換の時間を、ほぼ毎回、設けた。</p>	

中村 安秀	医療通訳論 I + 医療通訳論 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒医療通訳論 I・II とともに、非常に高い評価をいただき、ありがとうございました。米国医療通訳士協会（IMIA）の講師の先生方も、この集中講義のために、わざわざ来日してくれています。</p> <p>多くの受講者の方から、もっと授業時間を長くしてほしい、演習の時間が足りない、という声をいただいています。残念ながら、決められた時間数なのでご容赦ください。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度のレベルを維持するとともに、授業内容は、毎年バージョンアップしています。</p>	

斉藤 弥生	社会保障政策論 II / 社会保障政策論特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒Thank you very much for your participation. Prof. Pestoff and Prof. Vamstad enjoyed very much to discuss with you in the course. They were impressed by your daily presentations and final reports. It is first time for the faculty to invite guest professor from other country for such an intensive course. We plan to have same course next year, so please tell your colleagues to join this intensive summer course.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	